

編集後記

リコーは今年の2月6日に創立70周年を迎え、本テクニカルレポートも32号を数えることになりました。50周年記念号に続いて二度目の社長巻頭言を掲載することになりました。桜井社長にはリコーグループCEOとして今後の技術開発の進め方・方向性、技術者への期待などを述べて頂きました。

この間、本レポートは内容面ではNo.31よりグループ関連会社からの論文・製品技術解説を掲載するようになり、またここ10年で編集方式を一新するなど大きな変化を遂げてきました。No.1からNo.22までは伝統的な切り貼り版下方式でしたが、No.23（1997年）からワンソース・マルチユースを目指した編集のDTP化、電子化をスタートしました。その大きなきっかけになったのはAdobe Acrobatの日本語版の登場です。当時、Adobe Acrobat3.0Jはリコー内でも認知度は低いものでしたが、それを使ってDTP編集をゼロからスタートしました。次バージョンの4.0J（1999年）のようにフォント埋め込み機能がなくPCやプリンターのフォント環境により表示や印刷の書体が変わってしまうという不具合はありましたがNo.24（1998年）からWeb公開を本格実施し、No.25からCD-ROM版を冊子に差込み、No.26からMS WORDのテンプレートの使用を開始し、それまでのMacintosh DTPとWindowsファイルの相性の悪さからくる文字化けトラブルを一掃し、著者が原稿作成時に完成時のイメージでレイアウトすることができるようになりました。この結果、編集作業の負荷が著しく軽減され、少人数での編集が可能となりました。また、2002年にはCD-ROM版にマルチメディアコンテンツを格納し、2004年にはDTP以前のバックナンバーをすべてPDF化し、Ricoh Webサイトから検索できるようになりました。2003年以来、環境にやさしい植物由来の大豆インクを使用していることもささやかな変化の一つとしてあげられます。

1997年からワンソース・マルチユースというコンセプトで10年間編集を行ってきましたが、一般家庭にもブロードバンドが普及しつつある今、冊子やCD-ROMが本当に必要かどうかを検討する時期にきているように感じます。しかし長い間私達が慣れ親しんできた印刷物に対する愛着を払拭できない限り前述のような状況にはすぐにはならないように思いますが、いずれそのような時期がくると信じています。

（斉藤泰弘，塩田郁雄）

RICOH TECHNICAL REPORT NO.32 2006

| | | |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| 編集委員長 | 株式会社リコー研究開発本部 | 塩田 郁雄 |
| 事務局 | 株式会社リコー研究開発本部知的基盤企画室 | 斉藤 泰弘 進藤 由貴 永井 清登(Web担当) |
| 発行日 | 2006年12月1日 | |
| 発行 | 株式会社リコー研究開発本部 〒224-0035 神奈川県横浜市都筑区新栄町16-1 TEL 045-593-3411 Fax 045-593-3482 URL http://www.ricoh.co.jp/ | |
| 発行責任者 | 永松 荘一 | |
| 印刷 | 日経印刷株式会社 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-16-2 | |

非売品 禁無断転載 本誌に関するご照会は事務局までご連絡ください